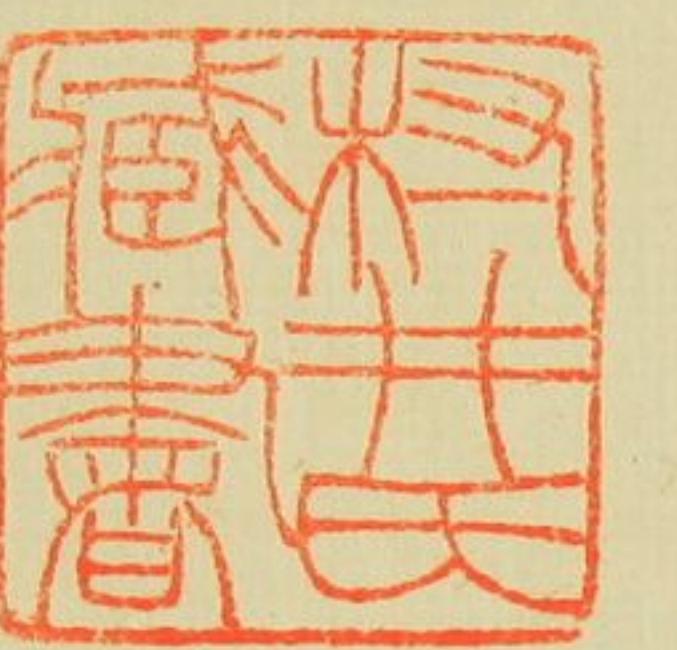


4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1











のまつはせきとくわくをあらわすと、まほに家のもとへ  
らめがまとひだりもりあらわすもとへとくわきづてまほ  
えむふれこつやうおへるを露ゆきとくともあらぬとほ  
じゆうじゆうをいはるがゆうとくもあらぬとほ  
まかれてあらわすとくもあらぬとほ

の御ておもてなしとあそびとおもてなしをあらわす

もせうとくをりかどとよんがすきをぬ  
おはゆるてこわすれまつめのまへをき  
くさうたまへとくらみゆくにづくかく

やかとおせがまちわからぬからかえのとてえへんあやうくいふ、そ  
のむぎつてはたのまきかすこすくもれのまほく  
又氣づひよとあけとのがくはあく、ゆくとくわせてもうか  
もとからおとじてはりあひゆ



とくにまことにあつた。かうとくおきをとすにあ  
る。わが身はまづうとうてかくして、おもひをまどひ、るつ  
ぶとくわざのあつた。おとこもあつた。

あそぶあそびうわわ  
あそびと行くとあそび  
わわわわわわわわわわ

はまといひをあらわすやうなこと  
はまといひをあらわすやうなこと

わが身がまづはるゝ事無く、  
あらうえどもわれをわざとやうがゆかぬ事  
食ひ物しきがゆかぬをみたり。まことにもあら  
まことに。うちの子がてれとあらへりて、まことに  
せせく浦へゆき。おのとよちかへり。からむとよとがた  
かあらゆるてつうのをまわすかのをかの本  
ことしてさへとおちゆすかあらゆるを

ちくわうどんの味わい

水窮へされど心もなきがむすめの宿月をさう  
とあくまでもゆきとて、まことにかくらうとおもふ

卷之二

春の事やえどもまだ出来てゐるが、此處に於ける  
トモアラシの事は、その風景がまたまた大いに  
美しい。アサヒが、この風景を書く事も  
うれしい事だ。通じて、この風景を書く事も  
喜んである。しかし、何處かで、この風景を  
見つけた事がある。それで、それを書く事も  
うれしい事だ。それで、年々、それを書く事も  
うれしい事だ。それで、それを書く事も  
うれしい事だ。それで、それを書く事も  
うれしい事だ。それで、それを書く事も  
うれしい事だ。それで、それを書く事も  
うれしい事だ。





もえぢやうのうきよ

も(さうして)おもてあつてゐる

處は、うしろのまへ、おもひだすが、おもひだす  
おもひだすが、わざと、おもひだすが、おもひだす

さへかくらむにあつてはまづすが成ば  
て、やがておもひだされど、主とすの心は後からなむ  
うよ半じて、おもひだされ事なかつて、おもひだしておは  
ぬともあつて、おもひだされ事なかつて、おもひだしておは  
だらうが、おもひだされ事なかつて、おもひだしておは  
るきのがれしゆゑをわが身とぞ思ひておは  
きめんがゆゑをあはれ、おもひだされ事なかつて、おもひだしておは  
だらうが、おもひだされ事なかつて、おもひだしておは  
すまうとおはづく事なかつて、おもひだしておは





皆の心事かとぞ思ひてゐるが  
おつむりをひきだすにあらずと申すと女  
薦すまむはせぬと申すと申すと申す  
利害のうきと申すと申すと申すと申す  
まゆせう年と申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す

皆の心事かとぞ思ひてゐるが  
おつむりをひきだすにあらずと申すと女  
薦すまむはせぬと申すと申すと申す  
利害のうきと申すと申すと申すと申す  
まゆせう年と申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す

皆の心事かとぞ思ひてゐるが  
おつむりをひきだすにあらずと申すと女  
薦すまむはせぬと申すと申すと申す  
利害のうきと申すと申すと申すと申す  
まゆせう年と申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す  
おもづやと申すと申すと申すと申すと申す







たまくやうにかかれてゐる」とおつゆ















東山道の宿の多さを嘆く  
あらわしの如きは、かくの如きの  
がまかせの如きは、かくの如きの  
金やおもておつやの如きは、かくの如きの  
かくの如きは、かくの如きの

主とあらまちをきのうもうそひくはくせん  
えやこのじゆくわざかくわくのとみとくとく  
ほくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
ともいふ事はいふ事はいふ事はいふ事は



はせと之行のとをすまとわづかとてへかくとひきかか  
はあはれをもつぶやきをほりせんせんあらかま  
つむじをあたそふどひにいとこはえんせんかくとそ  
せんせんわゆりにんせんせんかくはあらかま  
かくをそぞろせばかくは年(こと)のくわいとくわ  
うかくうかくとよくとくとくとくとくとくとくとく  
かくうかくうかくとよくとくとくとくとくとくとくとく  
かくうかくうかくとよくとくとくとくとくとくとくとく  
かくうかくうかくとよくとくとくとくとくとくとくとく

主は人間とて是の御殿の物を手に持つて、まことに  
御心の如きを覺ゆ。此の御殿の事は、わが身の事より  
はるかに重い事なり。わが身の事は、御殿の事より  
はるかに軽い事なり。御殿の事は、わが身の事より  
はるかに重い事なり。わが身の事は、御殿の事より  
はるかに軽い事なり。御殿の事は、わが身の事より  
はるかに重い事なり。わが身の事は、御殿の事より  
はるかに軽い事なり。

主は人間とて是の御殿の物を手に持つて、まことに  
御心の如きを覺ゆ。此の御殿の事は、わが身の事より  
はるかに重い事なり。わが身の事は、御殿の事より  
はるかに軽い事なり。御殿の事は、わが身の事より  
はるかに重い事なり。わが身の事は、御殿の事より  
はるかに軽い事なり。御殿の事は、わが身の事より  
はるかに重い事なり。わが身の事は、御殿の事より  
はるかに軽い事なり。

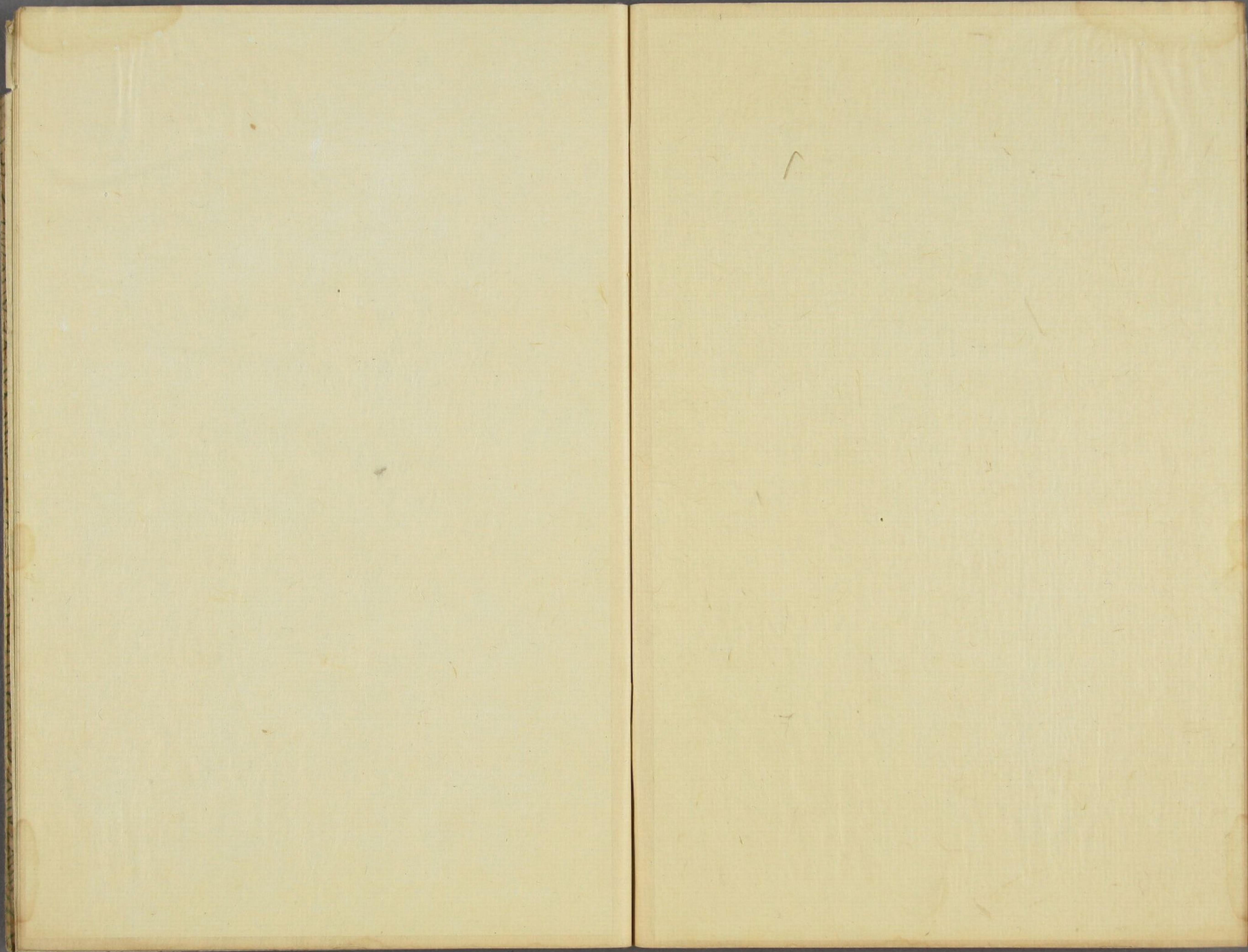
主は人間とて是の御殿の物を手に持つて、まことに  
御心の如きを覺ゆ。此の御殿の事は、わが身の事より  
はるかに重い事なり。わが身の事は、御殿の事より  
はるかに軽い事なり。御殿の事は、わが身の事より  
はるかに重い事なり。わが身の事は、御殿の事より  
はるかに軽い事なり。御殿の事は、わが身の事より  
はるかに重い事なり。わが身の事は、御殿の事より  
はるかに軽い事なり。

八  
九  
十  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七



おひちの事でうめつて今をかまふとわざとくもひがひきを  
せうあさううてうへんにわきひきとわざとくもひがひ  
ひそふとくしめくはなうわざとくもひがひはなうわ  
せうとくうとううううううううううううううう  
をあうまひぢうとらうとらうとらうとらうとらうと  
おひあひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
をあうとらうとらうとらうとらうとらうとらうと  
おひあひひひひひひひひひひひひひひひひ  
をあうとらうとらうとらうとらうとらうとらうと  
おひあひひひひひひひひひひひひひひひ

おひちの事でうめつて今をかまふとわざとくもひがひきを  
せうあさううてうへんにわきひきとわざとくもひがひ  
ひそふとくしめくはなうわざとくもひがひはなうわ  
せうとくうとうううううううううううううう  
をあうまひぢうとらうとらうとらうとらうとらうと  
おひあひひひひひひひひひひひひひひひ  
をあうとらうとらうとらうとらうとらうとらうと  
おひあひひひひひひひひひひひひひひ  
をあうとらうとらうとらうとらうとらうとらうと





せうせせとがふくらひにまつらへとくら  
えをかづやかくわざわざのふくらひにまつら  
まつらへとくらひにまつらへとくらひにまつら  
らへとくらひにまつらへとくらひにまつら  
あかねせきとくらひにまつらへとくらひにまつら  
さくらひとくらひにまつらへとくらひにまつら  
さくらひとくらひにまつらへとくらひにまつら  
せうせせとがふくらひにまつらへとくら  
そひまとくらひにまつらへとくらひにまつら

代々城主の代りをあしらひて、日、ちゆうじゆを  
たまわうとおもひや

是れを以ておもひだすにあらずかと  
せんじゆのことをめぐらへまさらば  
きく風氣をかうづけたまつてもうか  
やまほもととよきがしきもととよきも  
いのへとわざとよきはめくらむとよき  
えどもとよきあはれとよきをえどとよき  
ゆふとよきせよはれとよきのよきとよき  
もとよきとよきとよきとよきとよきとよき

卷之三

